



取扱説明書

JOG

JOG-DX

モーターサイクル



ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

B3K-28199-J0

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

この取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記を確認してください。

- お車の正しい取り扱い方
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受け渡し確認書・保証書の記入・捺印

安全運転の基本として以下は重要ですので、お守りください。

- この取扱説明書を、よくお読みください
- 取扱説明書の推奨手順に従ってください
- 安全に関する表示を理解し、守ってください

安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、右記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりとお読みください。



危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

アドバイス

お車のために守っていただきたいこと

車の仕様、その他の変更により、この本の表紙や内容と実車が一致しない場合があります。

車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

この取扱説明書は、**ジョグ DX** を中心に説明しています。イラストは**ジョグ DX** をベースにしています。

目次

安全なライディング	P. 2
操作ガイド	P. 12
メンテナンス	P. 45
こんなときは	P. 71
インフォメーション	P. 81
スペック	P. 90
索引	P. 93

安全なライディング

この章では安全な運転のために必要な情報を記載しています。

安全のためによくお読みください。

安全上守っていただきたいこと	P.3
安全運転のために	P.4
運転するときの注意	P.5
アクセサリーと改造について	P.9
積載について	P.10

安全上守っていただきたいこと

安全のため、日常的に次の内容をお守りください。

- 道路運送車両法に準じて設けられた日常点検・定期点検を行ってください
- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください
- 排気ガスには一酸化炭素(CO)などの有害な成分が含まれているため、エンジンは、風通しの良い場所でかけてください

安全運転のために

- 走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をフロアに置いてください
- 急激なハンドル操作や片手運転などはさけ、安全な運転を心がけてください
- 他の車両、歩行者などに対する配慮を欠かさないでください

乗車時の服装

運転者は必ずヘルメットを着用し、天候や走行状況に応じ、安全性が高く運転操作のしやすい、被視認性の高い二輪車用の服装を着用してください。

■ ヘルメット

安全基準を満たし、頭のサイズにあった視認性の高いもの

- 二輪車用で PSC、SG マークか JIS マークのあるものを推奨します
- 正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください
- 視界を妨げないフェイスシールドまたはゴーグルなどを使用し、眼を保護してください

⚠ 警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

■ グローブ

摩擦に強い皮製のもの

■ ブーツまたはライディングシューズ

滑りにくく、くるぶしまで覆われたもの

■ ジャケット・パンツ

プロテクターを備え、体の露出の少ない長袖・長ズボン

運転するときの注意

慣らし運転

適切な慣らし運転を行うと、お車の性能をより良い状態に保つことができます。

■ 慣らしのポイント（走行距離 100 km まで）

- 急発進、急加速をさける
- 急ブレーキをさける
- 控えめな運転をする

ブレーキ

次の項目に注意してください。

- 制動力を効果的に得るために前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う
- 不必要な急ブレーキをしない
 - ▶ タイヤをロックさせるなど、車体の安定性を損なうことがあります。
 - ▶ コーナリングの際は、コーナーの手前で減速してください。
- 雨天走行など滑りやすい路面に注意する
 - ▶ タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。

- 連続したブレーキ操作をしない

▶ 長い坂や急な坂で繰り返しブレーキをかけると、ブレーキの温度が上昇して効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。

■ コンビブレーキ

左ブレーキレバーを操作すると、後輪ブレーキが作動すると共に前輪ブレーキが作動し、右ブレーキレバーを操作すると前輪ブレーキが作動します。右ブレーキレバーのみ操作した場合と左ブレーキレバーのみ操作した場合では、制動力が異なるため効き具合に違いがあります。

制動力を効果的に得るためには、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使う必要があります。

■ 雨天または水たまりを走行したとき

路面が滑りやすくなったり、ブレーキの効き具合が変化します。慎重なブレーキ操作を心がけてください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキを乾かしてください。

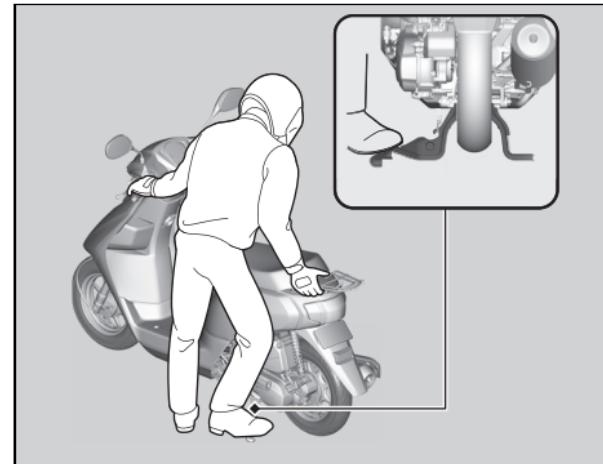
運転するときの注意

駐車するとき

- 交通の邪魔にならない平坦で足場のしっかりした安全な場所に駐車する
- やむをえず傾斜地や足場の悪い場所に駐車するときは、車の転倒や動き出しがないよう安全処置に十分注意する
- 盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜いて、シャッターを閉じる

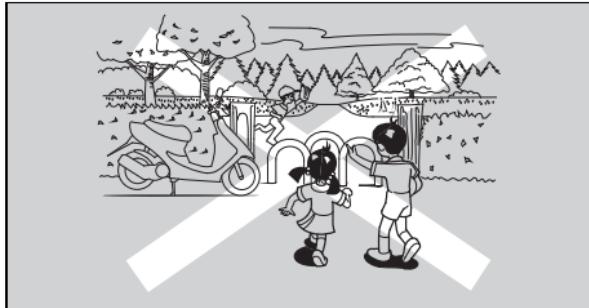
■ メインスタンドでの駐車

1. メインスイッチを OFF にする。
左手でハンドルをまっすぐにし、右手でリアキャリアをしっかりと持ち右足でスタンドを左右同時に地面につけて、立たせる。

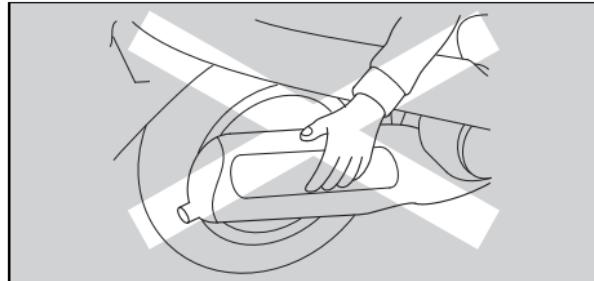


2. ハンドルバーを左いっぱいにくる。
3. ハンドルロックをかけ、キーを抜いて、シャッターを閉じる。☞ P. 24

- マフラーなどが熱くなっているので、他の方が触ることのない場所に駐車する



- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラー、エンジンなどに触れない



△ 注意

マフラー、エンジン、ブレーキなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。触るとヤケドを負う可能性があります。

- マフラー、エンジン、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで触れないこと
- 高温になる部分に可燃物が接触せず、他の方が触れることのないよう配慮すること

運転するときの注意

燃料補給およびガソリンの取り扱い

エンジン、燃料装置、触媒装置の損傷を防ぐため、下記に注意してください。

- 無鉛レギュラーガソリンを使用する
- 高濃度アルコール含有燃料を補給しない
- 軽油や粗悪ガソリン（長期間保管したガソリン）、または不適切な燃料添加剤を使わない
- 燃料タンクの中に、泥、ほこり、水などを入れない

⚠ 警告

ガソリンは燃えやすくヤケドを負ったり爆発して重大な傷害に至る可能性があります。また身体に帯電した静電気の火花により引火する可能性があります。

ガソリンを取り扱うときは以下のことを守ってください。

- ・ エンジンを止め、火元を遠ざける
- ・ 紙油は必ず屋外で行う
- ・ こぼれたガソリンは、すぐに拭き取る
- ・ 紙油作業前に車体や紙油機などの金属部分に触れて静電気を除去する

アクセサリーと改造について

アクセサリーを装着する際は、安全面からヤマハ純正アクセサリーを推奨します。ヤマハ販売店にご相談ください。

ヤマハ販売店で取り付けられたヤマハアクセサリーなどの取り扱いについては、その商品に付属の説明書をお読みください。

車の構造や機能に関する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることができます。不正改造は法律に触ることはもちろん、他の迷惑行為となります。

車の改造は保証の適用を除外されます。

⚠️ 警告

不適切なアクセサリーや改造は、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

アクセサリーを装着する際は、ヤマハ販売店にご相談のうえ、取扱説明書に従ってください。

積載について

- 荷物を積むと積まないときにくらべて操縦安定性が変わるため、安全な速度で走行してください
- 荷物の積みすぎに注意し、確実に固定して安全な速度で走行してください
- フックには、車体からはみ出したり、足に当たるような大きな荷物はかけないでください
 - ▶ 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。
- ハンドル操作ができなくなる場合があるので、ハンドル付近に物を置かないでください
- 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあるので、インナーボックスから荷物がはみ出さないようにしてください
- ヘッドライト、ウィンカー、トップ / テールランプ、マフラー周辺への積載はさけてください
 - ▶ 過熱によりレンズが溶けたり、荷物が損傷する場合があります。

- カバー等が破損する場合があるので、指定の場所以外に荷物を積まないでください
 - ▶ 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。
- レンガや鉄片等、固くて重いものをトランクに積んだまま走行しないでください
 - ▶ 積載重量以内でもトランク底面が損傷する場合があります。
- 貴重品やこわれ易いものは積まないでください
- トランクに熱の影響を受け易い物は積まないでください

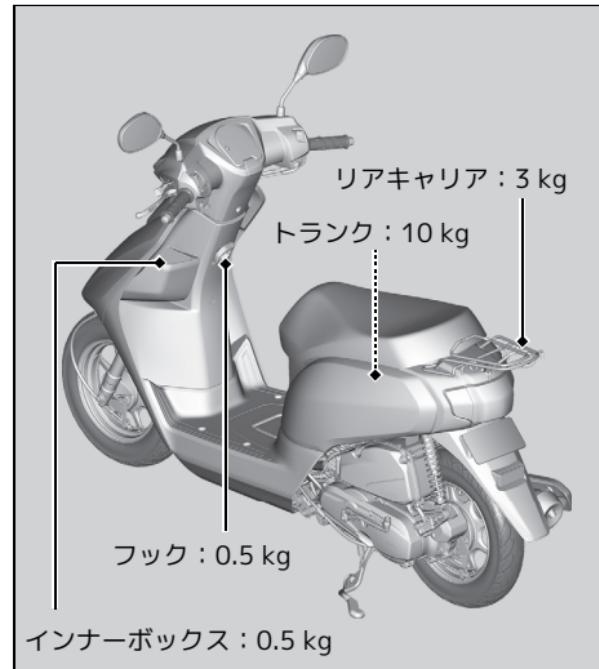
- 荷物の積載は下記重量までです

フック : 0.5 kg

インナーボックス : 0.5 kg

トランク : 10 kg

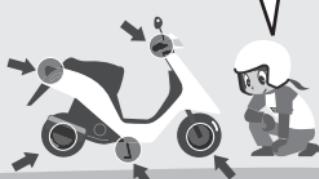
リアキャリア : 3 kg



基本操作の流れ

エンジン始動前 ➔ P. 46

運転する前に日常点検を行いましょう。
燃料残量を確認しましょう。



加速 ➔ P. 37

発進や加速はスロットルを
ゆっくり回し、急加速はさけ
ましょう。



エンジン始動 ➔ P. 32

周囲の安全を確認して、エンジンをかけます。
空ぶかしはさけましょう。

基本装備の使いかた

- メーター ➔ P. 16
- 警告灯 / 表示灯 ➔ P. 23
- スイッチ ➔ P. 24
- ハンドルロック ➔ P. 26
- シャッター ➔ P. 27
- 後輪ブレーキロック ➔ P. 28
- アイドリングストップ・
システム ➔ P. 29

発進

後方の安全や周囲の状況に
注意し、方向指示器で合図を
出し走り出します。



| 減速 ➔ P.37

STOP!

スロットルを素早く戻し、前後のブレーキの両方を使い速度を下げ、必要な急ブレーキはさけましょう。制動灯（ストップランプ）が点灯し、後車への合図になります。

| 停止

早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車に注意しながら、徐々に路肩に寄ります。

| 燃料補給 ➔ P.39

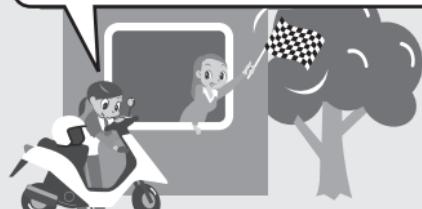
ガソリンスタンド



手前で十分に減速して…

| 駐車 ➔ P.6

安全な場所に駐車しましょう。メインスタンド、ハンドルロック、シャッターを確認します。

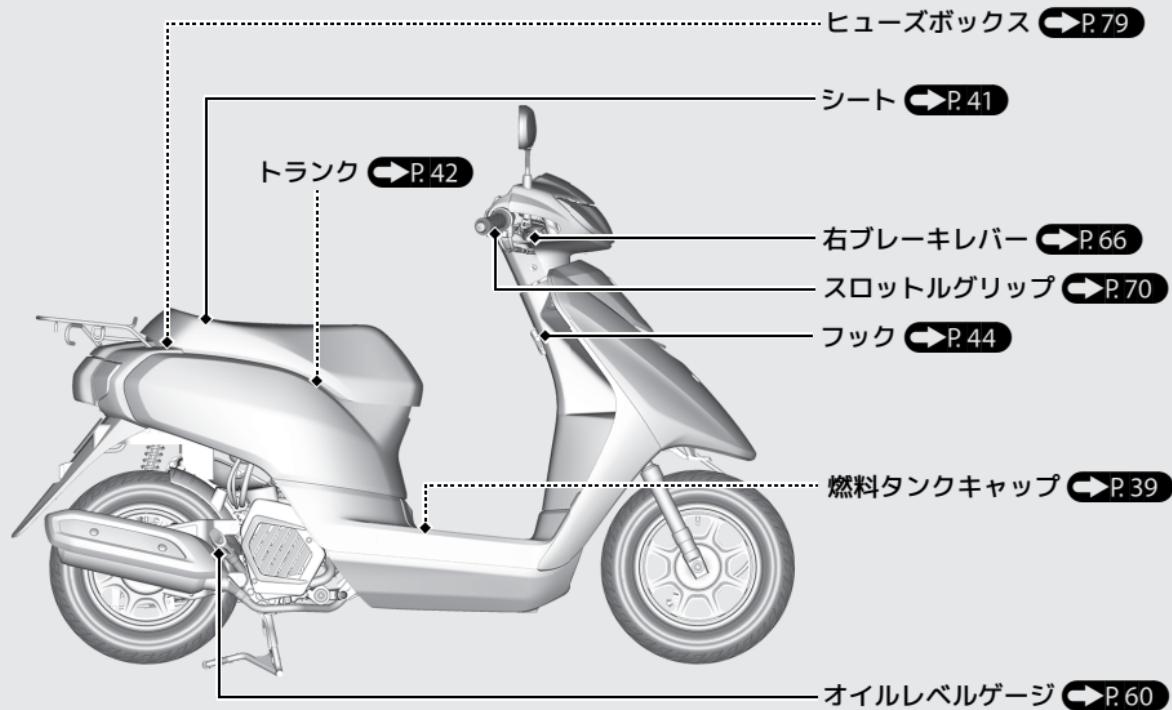


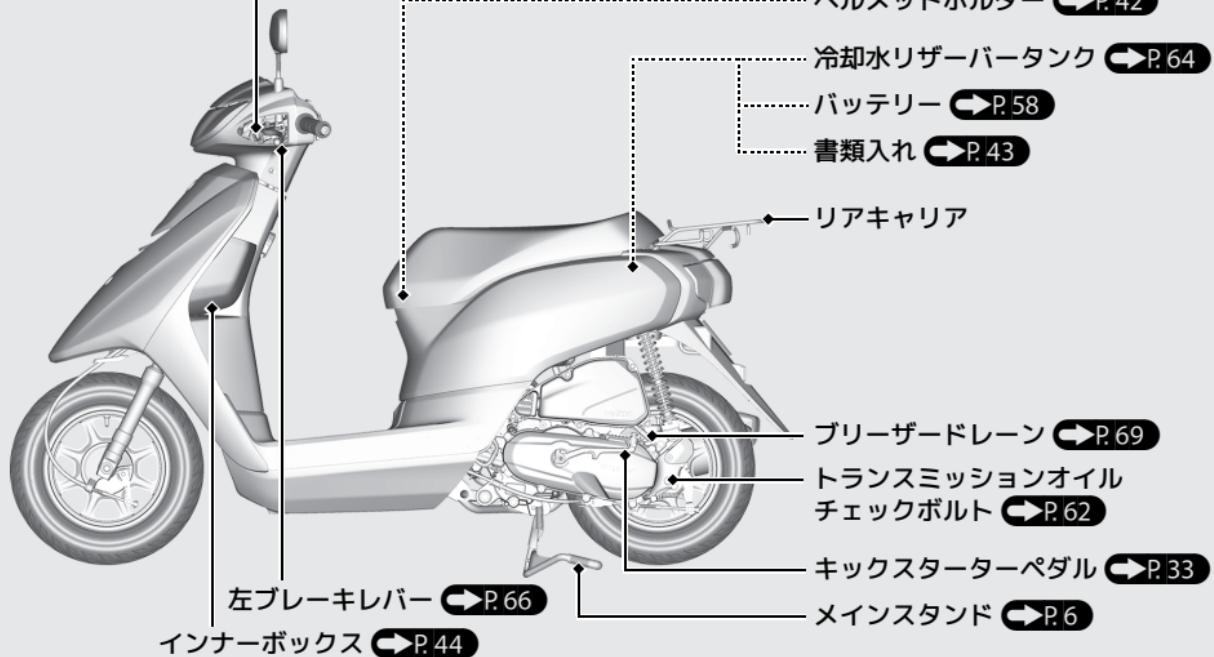
| コーナリング



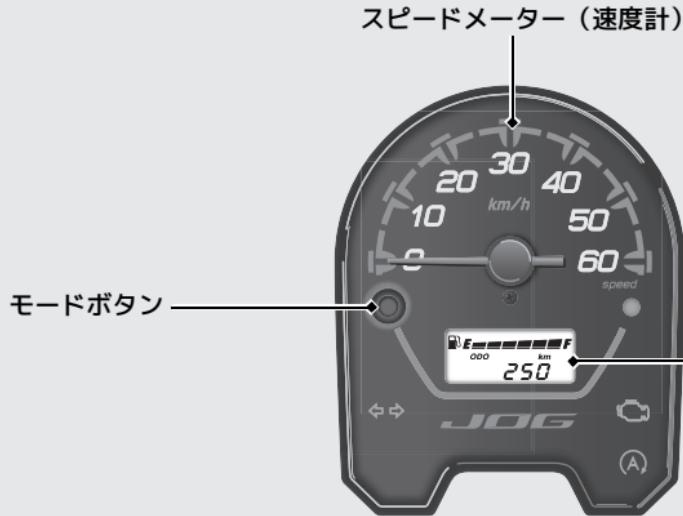
スロットルをゆっくり回して加速します。

各部の名称



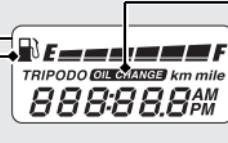


メーター



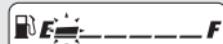
メーターの初期表示

メインスイッチを ON にすると、すべての表示があらわれます。また、スピードメーターの指針が一度最高目盛に振れた後、“0”に戻ります。表示されない部分がある、または、指針が振れない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。



燃料計

ガソリンの量を確認するときは、車体を垂直にしてください。マークが1つ(E)だけ点灯したときの燃料残量：約1.49ℓ
さらに燃料タンク内のガソリンの量が減ってくるとマークが点滅します。



燃料計の故障表示

► P.75

OIL CHANGE エンジンオイル交換時期表示

エンジンオイル交換時期の目安として点灯する。

- ▶ エンジンオイル交換時に必ずリセットしてください。リセットしないと交換時期の目安になりません。
- ▶ 工場出荷時の設定では、初回1,000km走行時に点灯し、以降リセットした時点より6,000km走行すると点灯します。点灯するまでの走行距離は調整することができます。► P.21

エンジンオイル交換時期表示のリセット

モードボタンを押した状態でメインスイッチをONにし、モードボタンを約3秒間エンジンオイル交換時期表示**OIL CHANGE**が消灯するまでそのまま押し続ける。

- ▶ エンジンオイル交換時期表示**OIL CHANGE**が消灯しているときにリセットを行った場合は、エンジンオイル交換時期表示**OIL CHANGE**が約2秒間点灯した後、消灯します。

メーター 前ページの続き



オドメーター [ODO] / トリップメーター [TRIP] / 時計 [AM / PM12 時間表示] / 点灯到達距離表示 / エンジンオイル交換時期調整

モードボタンを押してオドメーター、トリップメーター、時計を切り換える。

- オドメーター：総走行距離
- トリップメーター：トリップメーターを表示中にモードボタンを押し続け、0.0 km にリセットしてからの走行距離

時計の合わせかた ➡ P.20



➡ モードボタンを押す

オドメーター表示中にモードボタンを押し続けて点灯到達距離表示に切り換える。

● 点灯到達距離表示：エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** が点灯するまでの走行距離

- ▶ 点灯到達距離表示への切り替えは停車中に行ってください。走行するとオドメーター表示に切り換わります。
- ▶ 点灯到達距離表示が 0 になると、エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** が点灯します。
- ▶ 約 30 秒間操作がない場合、オドメーター表示に切り換わります。
- ▶ 表示が “----” になったときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- ▶ 点灯到達距離表示中、モードボタンを押すと一度点滅し、その後再び点灯到達距離表示に切り換わります。

点灯到達距離表示中にモードボタンを押し続けて、エンジンオイル交換時期調整に切り換える。

➡ P.21



メーター 前ページの続き

時計の合わせかた

① メインスイッチを ON にする。

② 時計を表示する ➡ P.18

③ 時の表示が点滅するまでモードボタンを押し続ける。



④ モードボタンを押し、時を修正する。

- ▶ AM/PM の表示は、数字が 11 から 12 へ進むと同時に切り換わります。



⑤ モードボタンを押し続け、時を決定する。決定と同時に分が点滅する。



⑥ モードボタンを押し、分を修正する。



⑦ モードボタンを押し続け、分を決定すると設定が終了する。

- ▶ メインスイッチを OFF にすることでも設定を確定できます。
- ▶ 設定中に 30 秒間操作がない場合、設定は無効となります。

エンジンオイル交換時期調整

エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** のリセット後から **OIL CHANGE** が点灯するまでの走行距離を任意に設定することができます。

エンジンオイル交換時期調整は停車中に行ってください。

▶ 走行するとオドメーター表示に切り替わり、それまでの設定が保持されます。

アドバイス

エンジンオイル交換時期表示は、エンジンオイル交換の目安です。

メンテナنسノートに記載された交換時期をお守りください。

- ① 点灯到達距離表示に切り換える。 ➡ P.19
- ② 点灯到達距離表示中に、交換時期とエンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** が点滅するまでモードボタンを押し続ける。

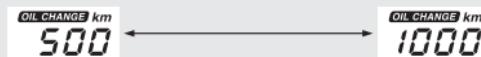


- ③ モードボタンを押し、交換時期を設定する。

▶ 500 km ~ 6,000 km の間で 500 km ごとに設定できる。



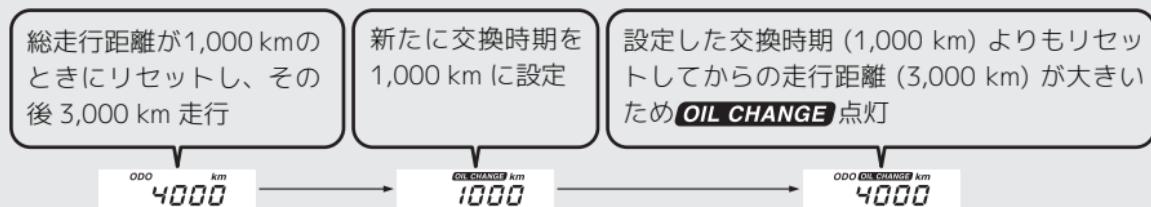
▶ エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** の初回リセット前かつ総走行距離が 1,000 km 未満の場合：500 km または 1,000 km を選択する。



メーター 前ページの続き

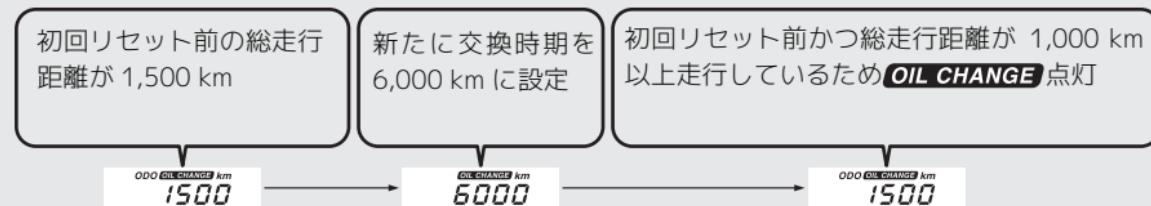
- ④ モードボタンを押し続け、設定を決定する。同時にオドメーター表示に切り換わる。
- ▶ メインスイッチを OFF にすることでも設定を確定できます。
 - ▶ 設定した交換時期は再調整するまで引き継がれます。
 - ▶ 30 秒間操作がない場合、オドメーター表示に切り換わり、設定は無効となります。
 - 新しく設定した交換時期よりも、エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** リセット後からの走行距離が大きい場合、エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** が点灯します。

例



- エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** の初回リセット前かつ総走行距離が1,000 km以上の場合も、エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** が点灯します。

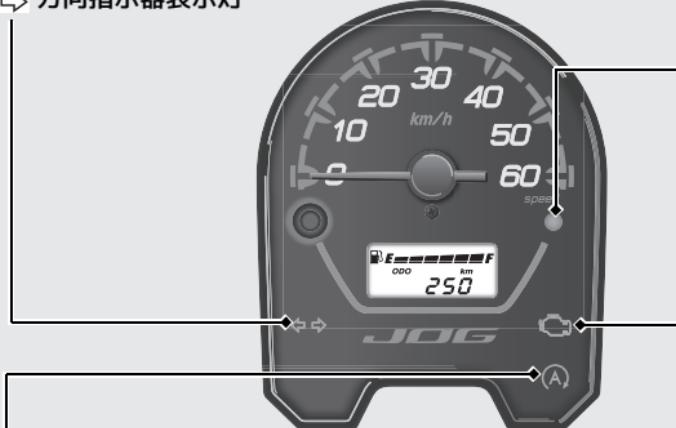
例



警告灯／表示灯

警告灯／表示灯が点灯すべきときに点灯しない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

↔ 方向指示器表示灯



速度警告灯

メインスイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯

走行中に点滅したときは ➡ P.74

(A) アイドリングストップ表示灯

ジョグ DX

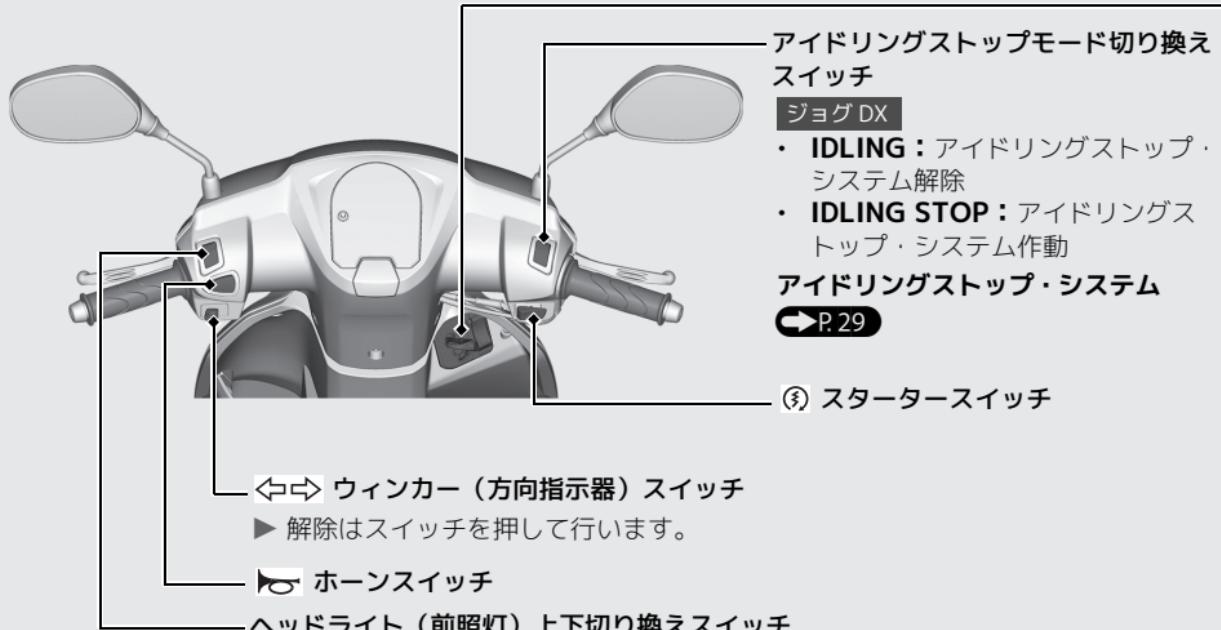
アイドリングストップモード切り換えスイッチが IDLING STOP のときに、メインスイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯
アイドリングストップ・システム ➡ P.29

FI 警告灯

メインスイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯

走行中またはアイドリング中に点灯したときは ➡ P.74

スイッチ



メインスイッチ

電気回路のON／OFF、ハンドルロック、シートを開けるときに使用

▶ OFF または \blacksquare (LOCK) の位置で、キーを抜くことができます。

SEAT

シートを開けることができる

OFF

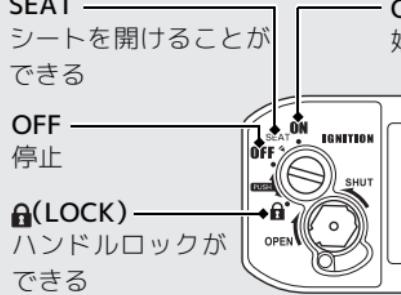
停止

\blacksquare (LOCK)

ハンドルロックができる

ON

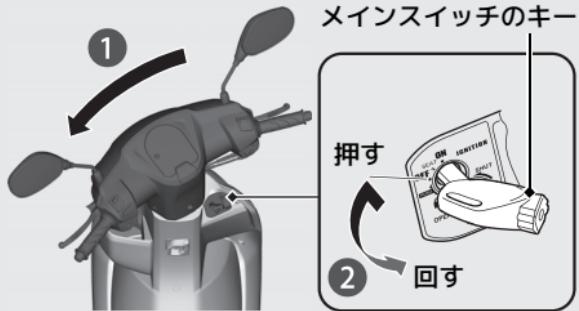
始動・走行



スイッチ 前ページの続き

ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけ、シャッターを閉じましょう。U字ロックなどの使用も推奨します。



かけかた

- ハンドルを左または右にいっぱいにくる。
- キーを押し込みながら、**L**(LOCK) の位置まで回す。

▶ ロックがかかりにくい場合は、ハンドルを左右に軽く動かしてください。

- キーを抜く。

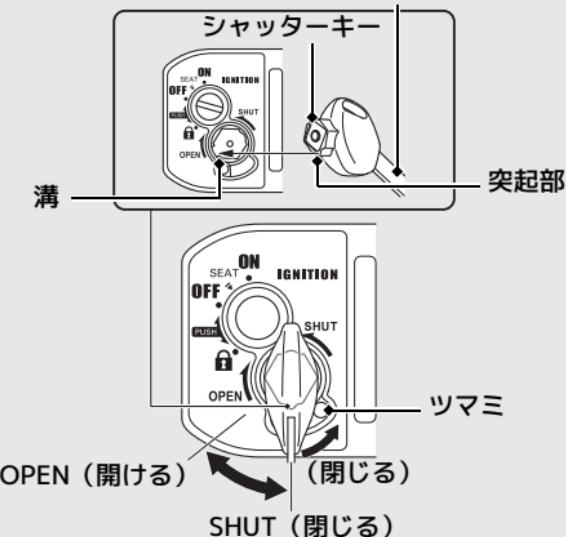
外しかた

キーを押し込みながら、OFF の位置まで回す。

シャッター

盗難やいたずら防止のため、メインスイッチにシャッターを装備しています。車から離れるときは必ずシャッターを閉じましょう。

メインスイッチのキー



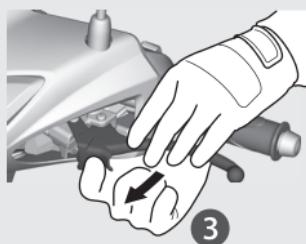
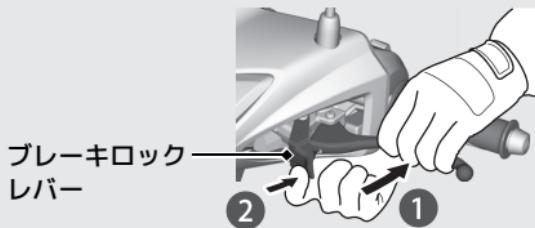
閉じかた

- ① メインスイッチのキーを抜く。
- ② ツマミを上方に動かして閉じる。
 - ▶ シャッターキーの突起部を溝にあわせて差し込み、反時計回りに止まるまで回すことで閉じることができます。

開けかた

- ① シャッターキーの突起部を溝にあわせて差し込む。
- ② シャッターキーを時計回りに止まるまで回す。

後輪ブレーキロック



【かけかた】

- ① 左ブレーキレバーを強く握る。
- ② ブレーキロックレバーを矢印の方向に動かして保持する。
- ③ ブレーキロックレバーをセットしたまま左ブレーキレバーを放せば、タイヤがロックする。
▶ ブレーキの調整を適切にしないと、ロックされないことがあります。➡P.66

【外しかた】

左ブレーキレバーを強く握ると自動的にブレーキロックレバーが外れる。

アイドリングストップ・システム

ジョグ DX

アイドリングストップ・システムは、信号待ち等の停車時にアイドリングストップ（エンジンを停止）することで燃料消費の低減および騒音の抑制を目的としたシステムです。

アイドリングストップ・システムの切り換え

アイドリングストップ・システムの作動と解除の切り換えを、アイドリングストップモード切り換えスイッチにて行います。

作動の場合：IDLING STOP にします。

- ▶ 走行中にアイドリングストップが可能な状態になるとアイドリングストップ表示灯が点灯、停車後アイドルストップ状態のときに点滅します。

解除の場合：IDLING にします。

- ▶ アイドリングストップ・システムを解除した場合、アイドリングストップ表示灯は消灯のままとなります。



アイドリングストップ
モード切り換えスイッチ



アイドリングストップ
表示灯（点灯）

アイドリングストップ・システムの起動

アイドリングストップモード切り換えスイッチが IDLING STOP の位置で下記条件を満たすと、アイドリングストップが可能な状態となり、アイドリングストップ表示灯が点灯します。

- ・ スタータースイッチによりエンジンが始動されていること
- ・ エンジンが十分に暖機されていること
- ・ 車速 10 km/h 以上で走行していること

アイドリングストップ表示灯が点灯しないときは

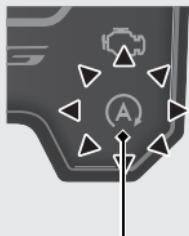
P.76

アイドリングストップ・システム 前ページの続き

■ アイドリングストップ（エンジンの停止）

アイドリングストップ表示灯が点灯しているときに、スロットルグリップを完全に戻し、停車するとアイドリングストップし、アイドリングストップ表示灯が点滅します。

- ▶ アイドリングストップ中はヘッドライトが減光します。
- ▶ アイドリングストップ中に、アイドリングストップモード切り替えスイッチを IDLING にする操作を行うと、アイドリングストップ・システムが解除され、スロットルグリップを回してもエンジンは再始動しません。



アイドリングストップ表示灯（点滅）

■ アイドリングストップ表示灯が点灯している
がアイドリングストップしないときは

▶ P.77

アドバイス

長時間のアイドリングストップ（エンジンの停止）はバッテリーあがりの原因となります。

■ アイドリングストップ・システムを安全に使用するため

アイドリングストップ表示灯が点滅している状態で車から離れないでください。車から離れるときは、必ずメインスイッチを OFF してください。

- ▶ スロットルグリップを回すと、エンジンが再始動するおそれがあります。

■ エンジンの再始動

アイドリングストップ表示灯の点滅を確認し、スロットルグリップを回す。

- ▶ アイドリングストップ表示灯が点滅していないとスロットルグリップを回しても、エンジンは再始動しません。

■ スロットルグリップを回してもエンジンが始動しないときは ➡ P.78

アドバイス

アイドリングストップ・システムが作動しエンジンが停止した状態でもヘッドライトは点灯しています。

バッテリーが弱っている際にこの状態が続くと、バッテリーがあがって再始動できなくなるおそれがあります。バッテリーが弱っているときは、アイドリングストップモード切り換えスイッチを IDLING にし、アイドリングストップしないようにしてください。

バッテリーの点検は6か月ごとにヤマハ販売店で行ってください。

エンジン始動

始動するには、エンジン・冷却水の温度にかかるず、次の手順で行ってください。

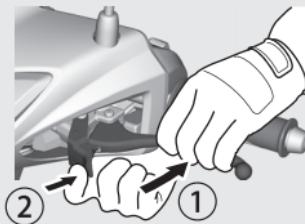
アドバイス

- ・スタートースイッチを押して 5 秒以内でエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを OFF にしてください。その後バッテリー電圧回復のため 10 秒ほど経ってからやり直してください。
- ・無用な空ぶかしや長時間のアイドリングはエンジンやマフラー、触媒装置に悪影響を与えます。
- ・万一転倒した場合は、一旦メインスイッチを OFF にしてください。再度走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

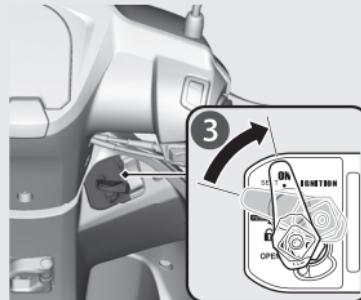
① メインスタンドを立てる。▶P.6

② ブレーキロックをかけ、タイヤをロックする。

左ブレーキレバーを強く握り(①)ブレーキロッドレバーを矢印の方向に動かして保持して(②)左ブレーキレバーを放す。



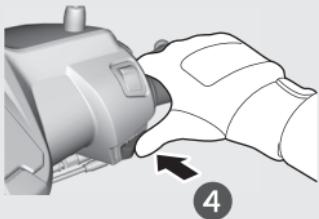
③ メインスイッチを ON に回す。



④ スタータースイッチで始動する場合

スロットルグリップを完全に閉じたまま、スタータースイッチを押す。

- ▶ エンジンがかかったらすぐに、スタータースイッチから手をはなしてください。



キックスターターペダルで始動する場合

スロットルグリップを完全に閉じたまま、キックスタートペダルを力強くキックする。

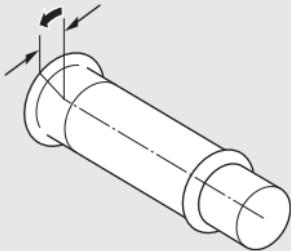
- ▶ エンジンがかかったら、必ずキックスタートペダルをたたんでください。



エンジン始動 前ページの続き

もし、エンジンがかからない場合は、スロットルグリップをわずかに（遊びを除いて 3 mm 程度）回しながら、スタータースイッチを押すか、キックスターターペダルを使用してください。

遊びを除いて 3 mm 程度



■ エンジンがかからないときは

- ① ブレーキロックをかけ、スロットルグリップを全開にし、スタータースイッチを 5 秒間押す。
- ② 通常手順（②～④）でエンジンをかける。
- ③ エンジンがかかり、エンジン回転が安定しない場合はスロットルグリップを少し開ける。
- ④ エンジンがかからないときは 10 秒間待ってから、①と②の手順を繰り返す。

長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしたときにガソリンを補給してもエンジンがかかりにくいことがあります。このようなときは、スロットルグリップを回さずにスタータースイッチを普段より多めに使用してください。
バッテリーあがりを防ぐため、スターターモーターは連続して 15 秒以上回さないでください。
15 秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度メインスイッチを OFF に戻して 10 秒以上待ってから再始動してください。

| それでも始動できないときは ➡ P.72

正しい運転の操作

スタートの手順

① ブレーキロックが外れないように注意しながら、車を前にゆっくり押してメインスタンドを外す。

- ▶ エンジンをかけてから走り出すまではエンジンの回転をむやみにあげないでください。
- ▶ 乗車する前に、メインスタンドは完全に納まっているか確認してください。

② 車の左側から乗車し、正しい乗車姿勢でシートにしっかりと腰をおろす。このとき足で車が倒れないように支える。

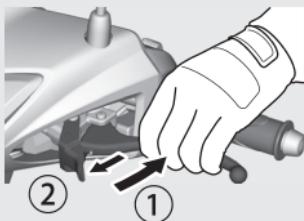
- ▶ 乗車してスタートするまではブレーキロックは外さないでください。



③ ブレーキロックを外す。

左ブレーキレバーを強く握る(①)とブレーキロックレバーが自動的に外れる(②)。

▶ ブレーキロックレバーを外すときは、スロットルグリップを回さないでください。飛び出しなどの危険性があります。



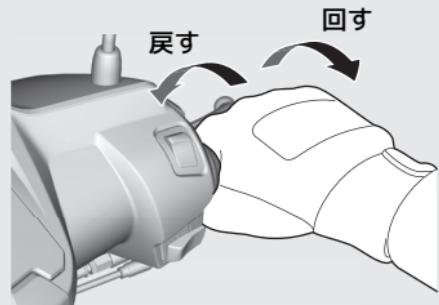
④ スロットルグリップをゆっくり回し、発進する。

▶ スロットルグリップをいきなり手前に回すと急加速して危険です。

スロットルグリップで速度調整を行う。

加速する・・・スロットルをゆっくり回す。

減速する・・・スロットルをすばやく戻す。



正しい運転の操作

前ページの続き

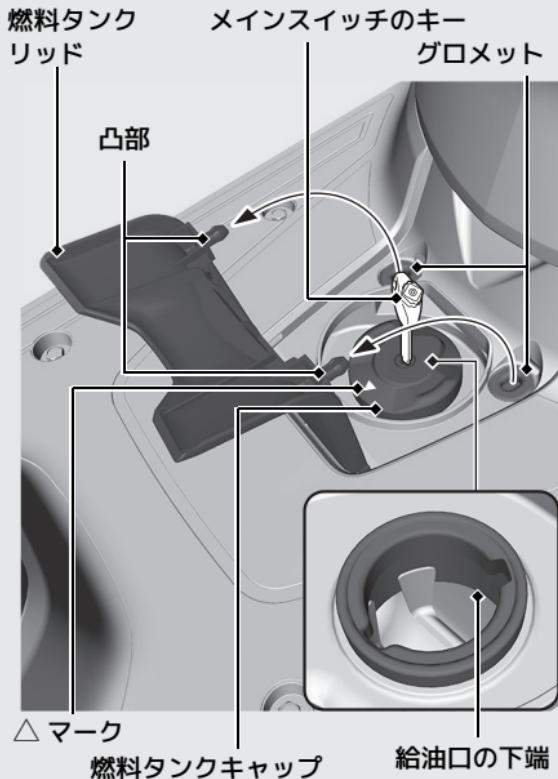
ブレーキの使いかた



ブレーキは、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使いましょう。

走行中は、ブレーキロックを操作しないでください。

燃料補給



燃料がにじみ出ることがあるので、給油口の下端以上入れないでください。

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：4.5 ℥

| 燃料についての注意 ➔ P.8

燃料タンクキャップの開けかた

- ① 燃料タンクリッドの上部を引き、凸部をグローメットから外して開ける。
- ② キーを差し込み右に回して、燃料タンクキャップを取り外す。

燃料補給 前ページの続き

燃料タンクキャップの閉じかた

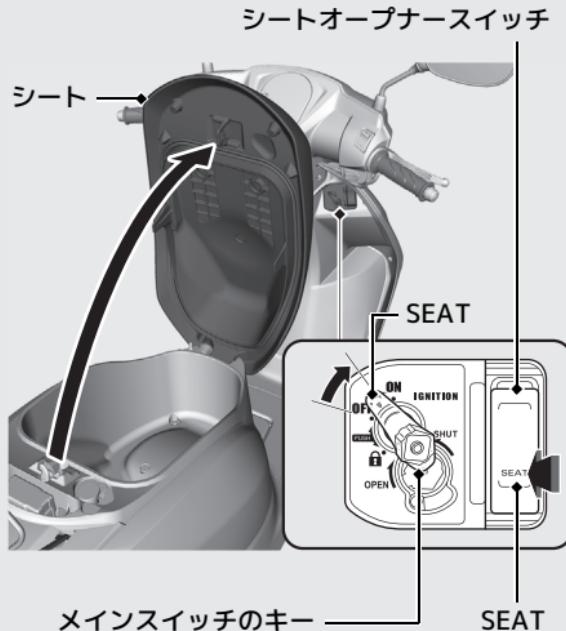
- ① 燃料タンクキャップの△マークを車両前方に向けて取り付け、燃料タンクキャップを手で確実に押してロックする。
- ② キーを抜き、燃料タンクリッドを確実に閉じる。
 - ▶ 燃料タンクキャップがロックされないと、キーは抜けません。

⚠ 警告

ガソリンは燃えやすいため、ヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

燃料補給およびガソリンの取り扱い ▶ P. 8

その他装備の使いかた



シートの開けかた

- ① ハンドルを直進状態にする。
- ② メインスイッチのキーをメインスイッチに差し込み、SEAT の位置にする。
- ③ シートオープナースイッチの SEAT を押して、シートを開ける。

シートの閉じかた

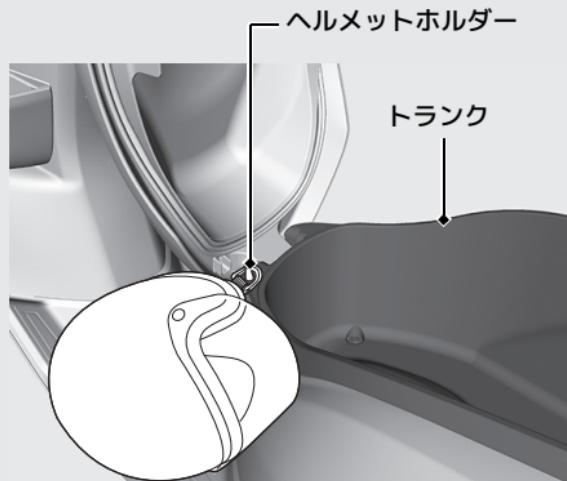
シートをおろし、シート後部を上から押してロックします。

シートを軽く持ち上げて、ロックがかかっていることを確認してください。

メインスイッチのキーをシート下に置き忘れた状態でシートをロックすると、キーが取り出せなくなりますのでご注意ください。

その他装備の使いかた 前ページの続き

シート下にヘルメットホルダーとトランクがあります。



⚠ 警告

ヘルメットホルダーにヘルメットをつけてそのまま走行しないでください。

走行の妨げになり、重傷を負ったり死亡したりする事故が発生することがあります。

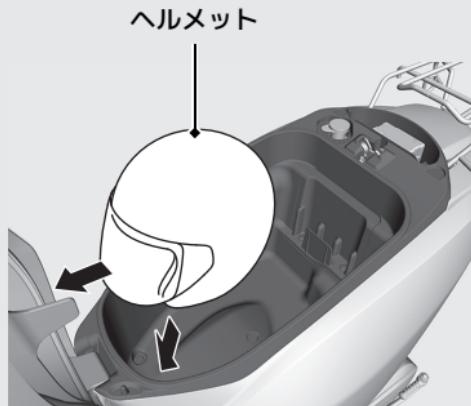
アドバイス

トランク内に貴重品やこわれ易いもの、熱の影響を受け易いものは入れないでください。また、トランク本体が損傷する場合があるので、固くて重いものを入れたまま走行しないでください。

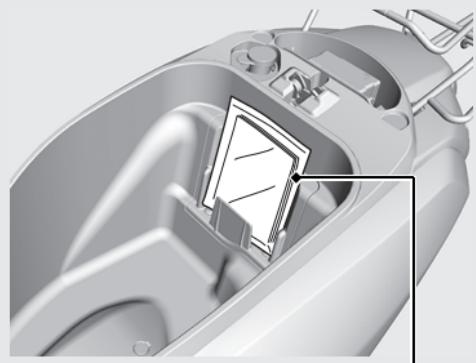
- ▶ ヘルメットホルダーは駐車時のみお使いください。

| シートの開けかた ➔ P.41

トランクにヘルメットを収納することができます。ヘルメットの前側をトランク前方に向けて収納してください。



書類入れはトランクにあります。



書類入れ

- ▶ ヘルメットの種類や形状、大きさなどにより、一部収納できない場合があります。

その他装備の使いかた 前ページの続き

フック

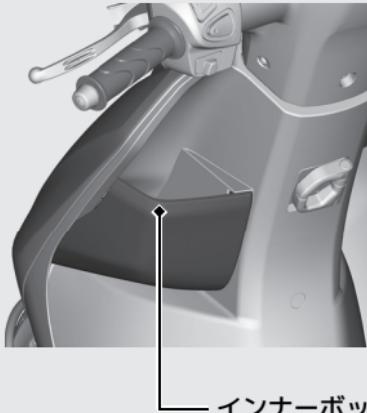
ハンドル下側にフックがあります。



- ▶ フックには車体からはみ出したり、足に当たるような大きな荷物はかけないでください。走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。

インナーボックス

ハンドル左下にインナーボックスがあります。



アドバイス

インナーボックス内に貴重品やこわれ易いものは入れないでください。また、インナーボックス本体が損傷する場合があるので、固くて重いものを入れたまま走行しないでください。

メンテナンス

メンテナンスを行う前に必ず「メンテナンスの基礎知識」をお読みください。
また、サービスデータについては「スペック」を参照ください。

メンテナンスの基礎知識	P.46
主要部品の脱着方法	P.57
クリップ	P.57
バッテリー	P.58
バッテリーメンテナンスリッド	P.59
エンジンオイル	P.60
トランスミッションオイル	P.62
冷却水	P.64
ブレーキ	P.66
ブリーザードレーン	P.69
スロットル	P.70

メンテナンスの基礎知識

メンテナンスの重要性

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1年ごと（12か月ごと）、2年ごと（24か月ごと）の定期点検整備を設けてあります。安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

⚠ 警告

誤った点検整備や、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- ・ 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- ・ 異状箇所は乗車前に修理してください。

安全なメンテナンスのために

メンテナンスにあたっては、次のことに注意してください。

- エンジンを停止し、キーを抜いた状態で行う
- 平坦地で足場のしっかりとした場所で行う
- エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分はヤケドのおそれがあるので、冷えるまで触れない
- エンジンを始動して作業をする場合は、換気を十分に行う

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令に準じ、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。

異音や異状を感じたときは、直ちにヤマハ販売店にご相談ください。

■ 日常点検項目

この車には下記の日常点検項目が適用されます。

● ブレーキ

- ・ レバーの遊び（機械式）
- ・ ブレーキの効き具合

● タイヤ

- ・ 空気圧
- ・ 亀裂、損傷
- ・ 異状な摩耗
- ・ 溝の深さ

● エンジン

- ・ 冷却水の量
- ・ オイルの量
- ・ かかり具合、異音
- ・ 低速、加速の状態

● 灯火装置および方向指示器

● 運行において異状が認められた箇所

定期点検

安全快適にお車をご使用いただくために、定期点検を必ず実施してください。

また、これらの他にも使い始めてから1か月目（または、1,000 km 時）に行う点検、ヤマハが指定する点検整備項目もあります。

■ 道路運送車両法に準じて設けられた点検

道路運送車両法に準じて設けられた点検には、以下の種類があります。

● 日常点検

- 1年ごと（12か月ごと）に行う点検
- 2年ごと（24か月ごと）に行う点検

I ご自身で点検を実施する場合

安全のため、ご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、ヤマハ販売店にご相談ください。

点検結果は、メンテナンスノートの定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

I 1か月目点検について

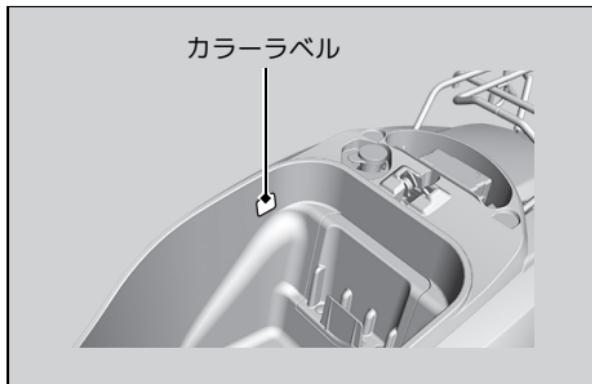
新車から1か月目（または、1,000km時）は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取り扱いいたします。お買いあげのヤマハ販売店で行ってください。他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。詳細については、メンテナンスノートをご覧ください。

I 交換部品について

整備の際は、ヤマハ純正部品を使用してください。色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは、シートを開けると確認できます。

⇒ P. 41



警告

ヤマハ純正部品以外のアクセサリー・部品の使用や、不正な改造は思わぬ事故の原因となり、重傷を負ったり、死亡したりすることがあります。

ヤマハ純正部品を使用してください。

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しており、バッテリー液の点検、補給は必要ありません。バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

また、密閉式の液口キャップは絶対に取り外さないでください。バッテリー充電時も液口キャップを取り外す必要はありません。

アドバイス

バッテリーには寿命があります。交換時期については、ヤマハ販売店にご相談ください。交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーを使用してください。

万一の場合の応急処置

以下のようなときは、応急処置したあと、直ちに医師の診察を受けてください。

- バッテリー液が眼に付着したとき

- ▶ コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、眼を痛めるおそれがあります。

- 電解液が皮膚に付着したとき

- ▶ 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を大量の水で洗浄してください。

- 電解液を飲み込んだとき

- ▶ 水、または牛乳を飲んでください。

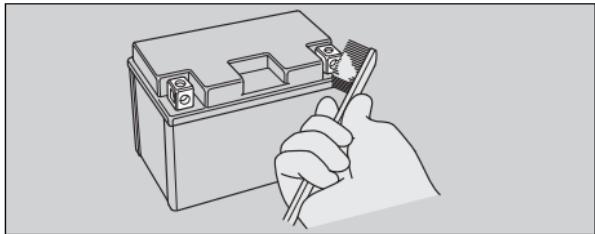
⚠ 警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、眼や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- ・ バッテリーの近くで作業するときは、保護メガネと保護服を着用
- ・ バッテリーを子供の手の届く所に置かない
- ・ ショートによる火花やたばこなどの火気には十分注意する

I ターミナル部の清掃

1. バッテリーを取り外す。⇒ P. 58
2. ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭く。
3. ターミナル部の腐食が著しいときは、ワイヤーブラシまたはサンドペーパーで磨く。



4. 清掃後、バッテリーを取り付ける。

電装部品やアクセサリーを取り付けるときは純正アクセサリーをご使用ください。それ以外のものを使用するとバッテリーあがりや故障の原因となります。

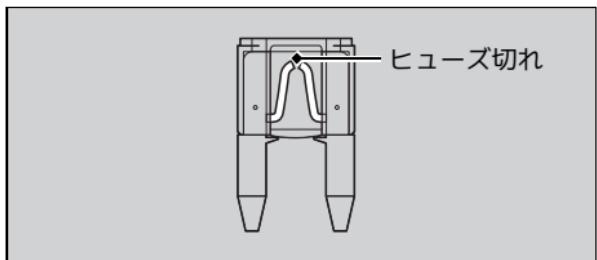
ヒューズ

この車の電気回路は、ヒューズで保護されています。電装部品が動作しないときは、ヒューズを調べ、必要に応じて交換してください。⇒ P. 79

I ヒューズの点検・交換

メインスイッチを OFF にして、ヒューズを取り外して点検します。切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換してください。

ヒューズの容量はスペックページをご確認ください。⇒ P. 92



アドバイス

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ヒューズの劣化以外の原因が考えられます。ヤマハ販売店にご相談ください。

エンジンオイル

エンジンオイルは走行距離や走行状況、時間の経過とともに劣化したり減っていきます。そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく日常点検によるオイル点検・補給が必要です。汚れたり古くなったオイルはエンジンに悪影響を与えますので早めに交換してください。

オイル交換はヤマハ販売店で行うことを推奨します。交換時期はスペックページをご確認ください。

⇒ P. 91

■ エンジンオイルの選びかた

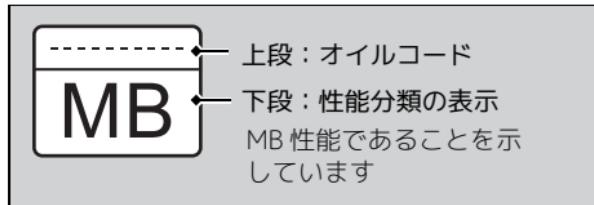
推奨エンジンオイル：

ヤマルーブレッドバージョンフォースクーター

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記の全ての規格を満たしているオイルをお選びください。全ての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

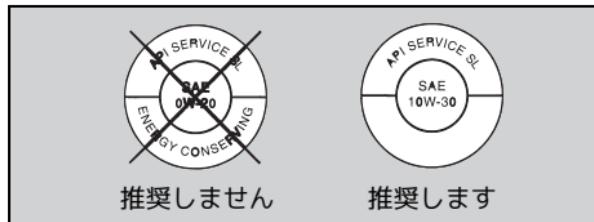
- JASO T 903 規格^{※1}：MB
- SAE 規格^{※2}：10W-30
- API 分類^{※3}：SG・SH・SJ・SL 級相当

※1:JASO T 903 規格は、二輪車用4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



※2:SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。

※3:API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



トランスミッションオイル

I トランスミッションオイルの選びかた

推奨トランスミッションオイル：

ヤマルーブレッドバージョンフォースクーター

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記の全ての規格を満たしているオイルをお選びください。全ての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

- JASO T 903 規格^{※1}：MB
- SAE 規格^{※2}：10W-30
- API 分類^{※3}：SG・SH・SJ・SL 級相当

※1:JASO T 903 規格は、二輪車用4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



上段：オイルコード
下段：性能分類の表示
MB 性能であることを示しています

※2:SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。

※3:API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



推奨しません



推奨します

冷却水

ヤマループロングライフクーラントを、蒸留水または水道水で下記濃度に薄めてお使いください。

標準濃度：50%

アドバイス

指定以外のラジエーター液や不適当な水（井戸水や天然水）を使うと、サビなどの原因となります。

エアクリーナー

この車には、ろ紙にオイルを含ませたビスカス式のエアクリーナーエレメントが装備されており点検・清掃は不要ですが定期的な交換が必要です。

エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店にご相談ください。交換時期はスペックページをご確認ください。☞ P. 91

ブリーザードレーン

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザードレーンの清掃が必要です。☞ P. 69

タイヤ

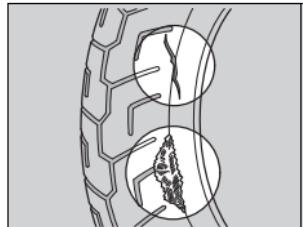
空気圧の点検

タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいため、少なくとも1か月ごとにタイヤゲージを使用して空気圧を点検してください。

タイヤは、走行後は温まり空気圧が高くなることがありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

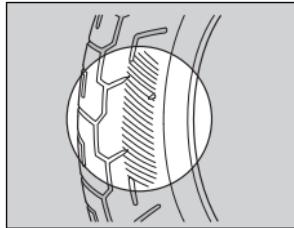
亀裂と損傷の点検

タイヤの全周に、亀裂や損傷、ひび割れおよび釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。



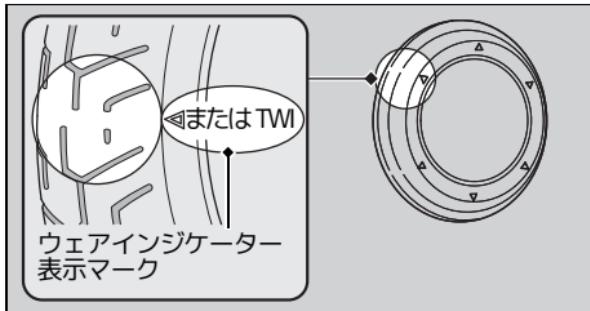
■ 異状な摩耗の点検

タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。



■ 溝の深さの点検

ウェアインジケーター（スリップサイン）により溝の深さを確認します。サインが現れたときは、直ちに交換してください。



△ 警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、ヤマハ販売店にご相談ください。指定タイヤ、空気圧はスペックページをご確認ください。☞ P. 91

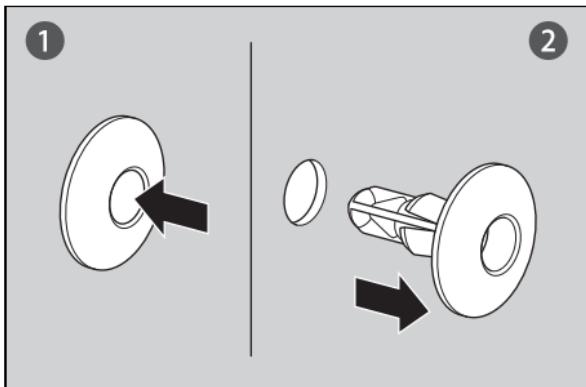
⚠ 警告

指定以外のタイヤを取り付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。また、そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取り付けてください。

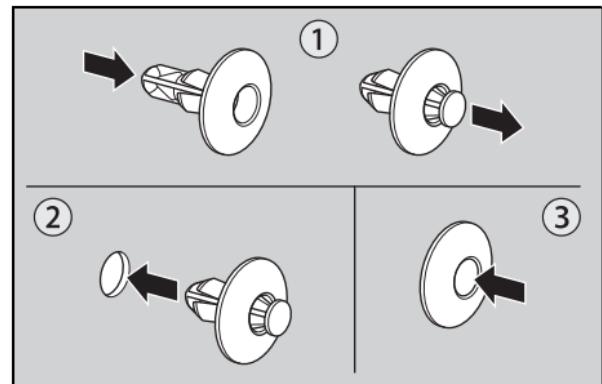
クリップ

取り外し



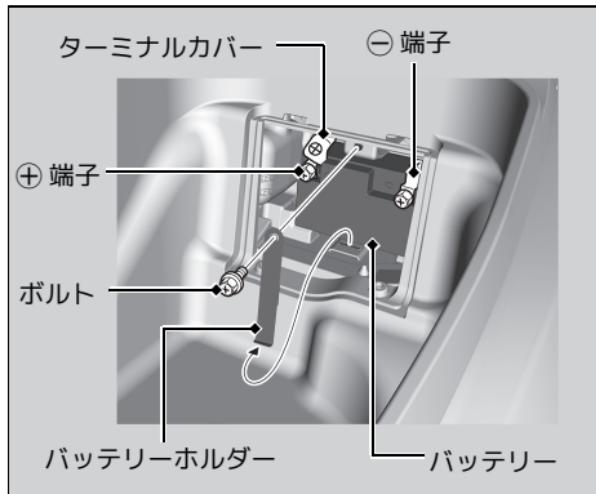
1. 中央部のピンを押し込んでロックを解除する。
2. クリップを引き抜く。

取り付け



1. ピンの下端を押し戻して取り付け状態にする。
2. クリップを穴に差し込む。
3. ピンを軽く押してロックする。

バッテリー



取り外し

メインスイッチが OFF になっていることを確認してください。

1. バッテリーメンテナヌスリッドを取り外す。
⇒ P. 59

2. ボルトを取り外し、バッテリーホルダーを取り外す。
3. ⊖端子のボルトを外し、⊖コードを外す。
4. ターミナルカバーをめくり、⊕端子のボルトを外し、⊕コードを外す。
5. 端子のナットを落とさないよう、バッテリーを取り出す。

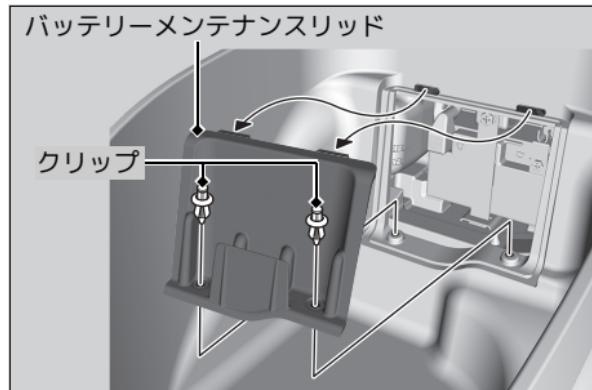
取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取り付けてください。また、ターミナル部にゆるみが生じないように、確実にボルトを締め付けてください。

バッテリーコードを再び取り付けたときに、時計の表示がずれている場合は合わせ直してください。⇒ P. 20

バッテリーの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。⇒ P. 49

バッテリーメンテナンスリッド



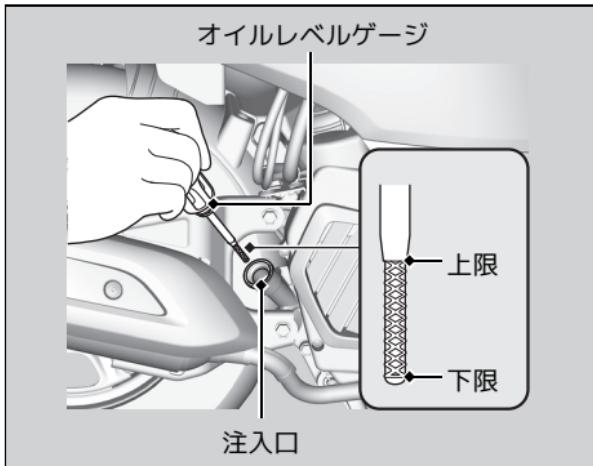
■取り外し

1. シートを開ける。▶ P. 41
2. クリップを取り外す。▶ P. 57
3. バッテリーメンテナンスリッドを取り外す。

■取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

オイルの量の点検



ジョグ DX

エンジンオイルの点検は、アイドリングストップモード切り換えスイッチをIDLINGにして行ってください。

1. エンジンが冷えている場合は、3～5分ほどアイドリングさせる。
2. メインスイッチを OFF にしてエンジンを止め、2～3分間待つ。
3. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
4. オイルレベルゲージを外す。
5. 布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭く。
6. オイルレベルゲージをねじ込まずに差し込む。
7. オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認する。
8. オイルレベルゲージを確実に取り付ける。

オイルの補給

エンジンオイルが不足している、またはオイルレベルが下限に近いときは、推奨エンジンオイルを上限まで補給してください。☞P. 51, ☞P. 91

1. エンジンオイルの点検後、オイルレベルゲージで確認（☞P. 60）しながら、オイルを注入口より補給する。
 - ▶ 上限を超えて補給しないでください。
 - ▶ ゴミが入らないようにしてください。
 - ▶ オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。
2. オイルレベルゲージを確実に取り付ける。

アドバイス

オイルは規定量よりも多くても少なくとも、エンジンに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

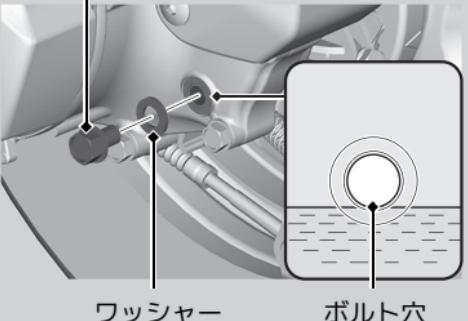
推奨エンジンオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。☞P. 51

オイル漏れの点検

エンジンなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

オイルの量の点検

オイルチェックボルト



1. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
2. オイルチェックボルト、ワッシャーを外す。
3. オイルがボルト穴の下端まであることを油面の位置で確認する。
4. ワッシャーを新品に交換し、オイルチェックボルトを確実に取り付ける。

オイルの補給

オイルの油面が低い場合は、推奨オイルをボルト穴の下端まで補給してください。

- 上限を超えて補給しない
- ゴミが入らないようにする
- オイルをこぼしたときは完全に拭き取る

アドバイス

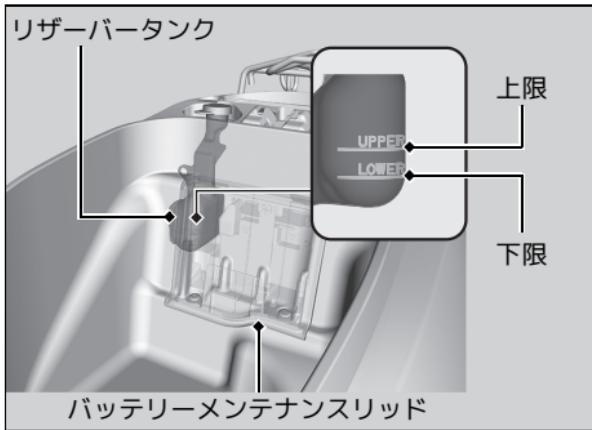
オイルは規定量よりも多くても少なくとも、トランスミッションに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

推奨トランスミッションオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。▶ P. 52

オイル漏れの点検

トランスミッションケースなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

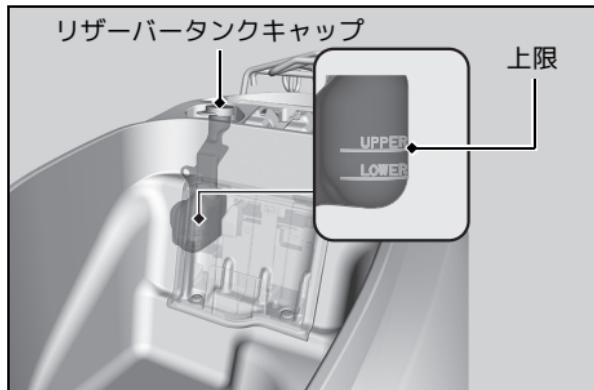
冷却水の量の点検



- 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
- シートを開ける。☞ P. 41
- 冷却水がリザーバータンクの上限(UPPER)と下限(LOWER)の間にあることを確認する。
► リザーバータンクが確認しにくい場合は、バッテリーメンテナンスリッドを取り外してください。☞ P. 59
- シートを閉じる。

冷却水の減り具合が著しいとき、またはリザーバータンクに冷却水がない場合は水漏れが考えられます。ヤマハ販売店にご相談ください。

冷却水の補給



冷却水の補給はリザーバータンクキャップから行い、ラジエーターキャップは外さないでください。

1. リザーバータンクキャップを取り外す。
2. 平坦地で車体を垂直にし、冷却水（☞ P. 53）のレベルを確認（☞ P. 64）しながら補給する。
 - ▶ 上限（UPPER）を超えて補給しないでください。
 - ▶ ゴミが入らないようにしてください。
3. リザーバータンクキャップを確実に取り付ける。
4. シートを閉じる。

⚠ 警告

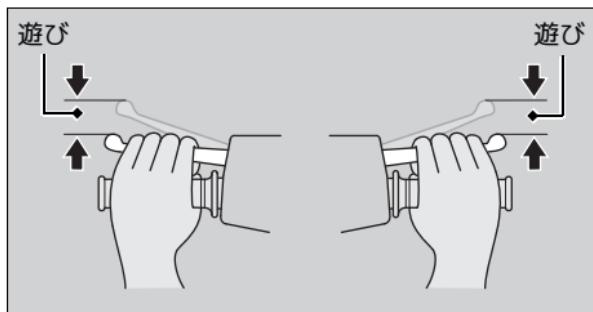
エンジンが熱いときにラジエーターキャップを外すと冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

ラジエーターキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエーターが冷えていることを確認してください。

ブレーキの遊びの点検

抵抗を感じるまで、ブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

ブレーキレバーの遊び：10 - 20 mm

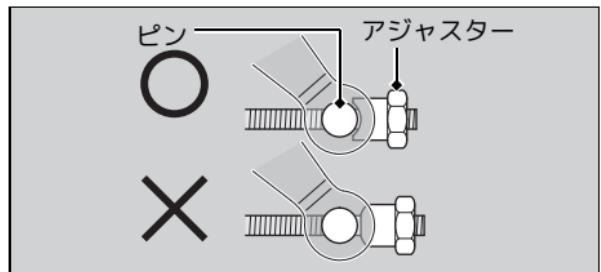


規定の範囲を超えている場合は調整してください。

ブレーキの遊びの調整

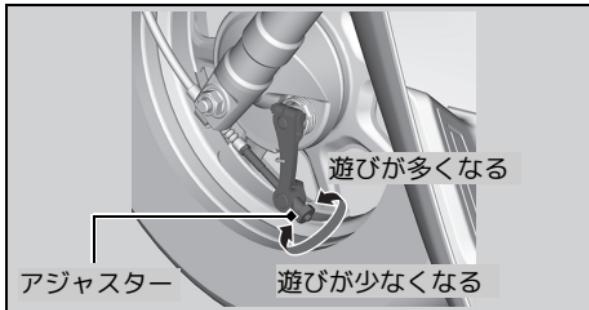
ブレーキの遊びはハンドルを直進状態にして調整します。

遊びの調整時は必ず、アジャスターの凹部をピンの凸部に一致させてください。

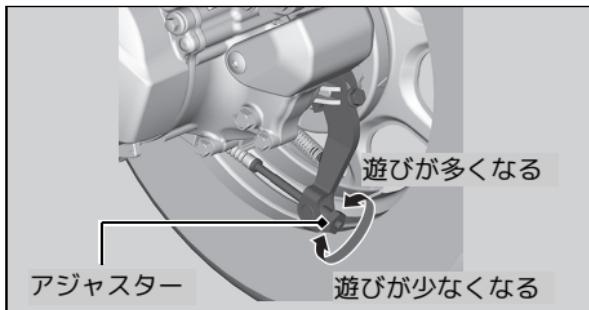


レバーの調整範囲を超えた場合や、詳しい遊びの調整についてはヤマハ販売店にご相談ください。

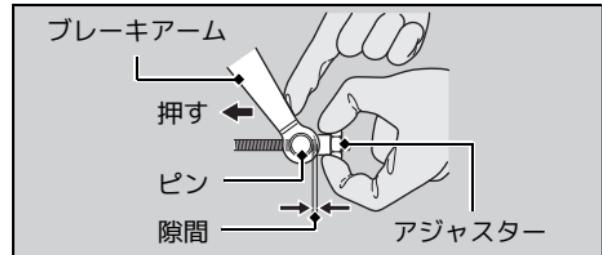
1. 前輪のアジャスターを半回転ずつ回し、右ブレーキレバーの遊びを調整する。



2. 後輪のアジャスターを半回転ずつ回し、左ブレーキレバーの遊びを調整する。



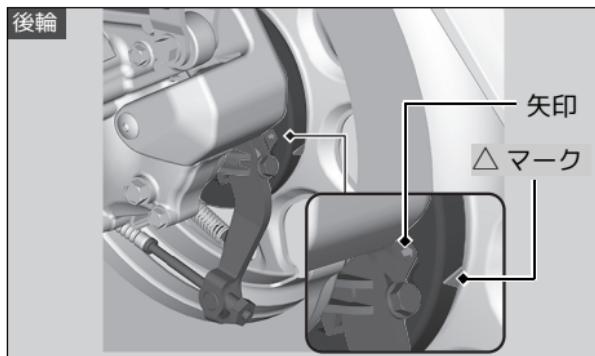
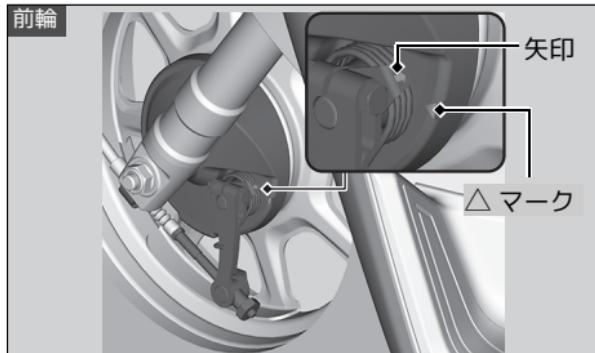
3. ブレーキアームを押し、アジャスターとピンの間に隙間があることを確認する。



調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。

ブレーキシューの摩耗の点検

メンテナンス



前輪は右ブレーキレバーをいっぱいに引いて、後輪は左ブレーキレバーをいっぱいに引いて、ブレーキインジケーターの矢印とブレーキパネルの△マークが一致しないことを確認します。

一致する場合は、ブレーキシューの使用限界ですので交換してください。ブレーキシューの交換は、ヤマハ販売店にご相談ください。

ブリーザードレーン

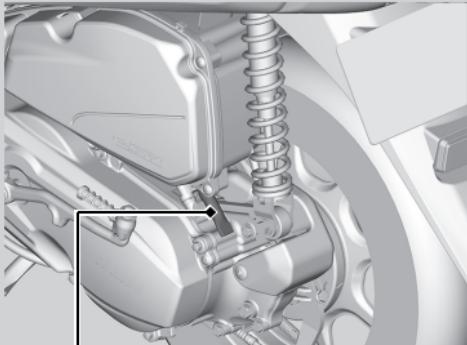
ブリーザードレーンの清掃 (ヤマハ指定 1年点検整備項目)

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザードレーンの清掃が必要です。

エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラー やエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

清掃のしかた

1. ブリーザードレーンの下に受け皿などを用意する。
2. ブリーザードレーンを外し、ブリーザードレーン内の堆積物を取り除く。
3. ブリーザードレーンを確実に取り付ける。



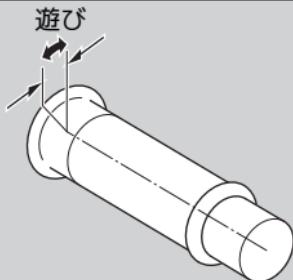
ブリーザードレーン

スロットルの点検

メインスイッチを OFF にした状態でスロットルを作動させ、スムーズに動くかどうか、ハンドルを左右にきっても作動が重くないか、スロットルグリップの遊びが適正か点検します。異状を感じた場合やスロットルケーブル外表面部に損傷があるときはヤマハ販売店にご相談ください。

スロットルグリップの遊び：

2 - 6 mm



こんなときは

エンジンが始動しない	P.72
オーバーヒート	P.73
警告灯が点灯 / 点滅	P.74
FI 警告灯	P.74
速度警告灯	P.74
その他の故障表示	P.75
燃料計の故障表示	P.75
アイドリングストップ・システムが正しく作動しない	P.76
電装部品のトラブル	P.79
ヒューズ切れ	P.79
エンジンが一時的に不調になる	P.80

スターターモーターは作動する がエンジンが始動しないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか
▶ P. 32
- 燃料タンクにガソリンはあるか
- FI 警告灯が点灯していないか
 - ▶ 点灯している場合は、直ちにヤマハ販売店にご相談ください。

こんなときは

スターターモーターが作動せ ず始動できないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか
▶ P. 32
- ヒューズが切れていないか ▶ P. 50
- バッテリーターミナル部に緩みや腐食がないか ▶ P. 49
 - ▶ バッテリーあがりで、スターターモーターが回らないときは、キックスター ターによる始動を試みましょう。

これらに該当しない場合や異常がある場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

オーバーヒート

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 走行時の加速が急に悪くなる

このようなときは直ちに安全な場所に車を停めて次の処置・確認を行ってください。

アドバイス

オーバーヒートの状態で走行を続けると、エンジン故障の原因となります。

長時間のアイドリングにより、オーバーヒートする可能性があります。

オーバーヒートの処置

1. メインスイッチをOFFにしてエンジンを止める。

- ▶ ラジエーターカバーに異物等の付着がないか、確認します。異物等がある場合は取り除いてください。
- ▶ メインスイッチがOFFの状態で、エンジンが冷えるのを待ちます。

2. エンジンが冷えてから、リザーバータンクの冷却水を点検し、冷却水が不足していたら補給する。⇒ P. 64, ⇒ P. 65
3. ラジエーターホースなどを点検し、水漏れがないか確認する。

水漏れがある場合

エンジンをかけず、ヤマハ販売店にご相談ください。

水漏れがない場合

走行可能です。ただし、異常が再発するときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

- ▶ 異常が再発しない場合でも、なるべく早くヤマハ販売店で点検を受けてください。

FI 警告灯

走行中またはアイドリング中に点灯した場合は何らかの異常が考えられます。高速走行をさけ、直ちに ヤマハ販売店にご相談ください。

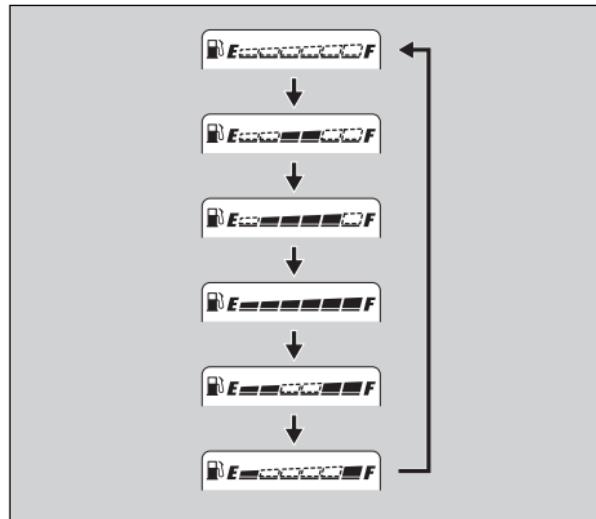
こんなときは

速度警告灯

車の速度が法定最高速度 (30 km/h) を超えると点滅し、運転者に注意をうながします。

燃料計の故障表示

燃料計のマークが図のように点灯、消灯をくりかえしたときはヤマハ販売店にご相談ください。



こんなときは

アイドリングストップ・システムが正しく作動しない

ジョグ DX

次の点を確認してください。該当しない場合や処置をしても症状が改善されない場合は、お買い上げのヤマハ販売店へご相談ください。

アイドリングストップ表示灯 が点灯しない

■ アイドリングストップモード切り換えスイッチが IDLING になっている

- アイドリングストップモード切り換えスイッチを IDLING STOP にしてください。

こんなときは

■ キックスターターペダルでエンジンを始動した

- キックスターターペダルでエンジンを始動した場合、アイドリングストップ（エンジンが停止）しないことがあります。スターター・スイッチでエンジンを再始動してください。
⇒ P. 32

■ エンジンが冷えている

- エンジンが冷えている状態ではアイドリングストップ・システムは作動しません。エンジンの暖機を行ってください。

■ エンジン始動後、走行していない

- エンジンを始動したあと、走行（車速 10 km/h 以上）しないとアイドリングストップ・システムは作動しません。一度、走行してください。

■ FI 警告灯が点灯している

- FI 警告灯が点灯している状態では、エンジン保護のためアイドリングストップ(エンジンが停止)しません。お買い上げのヤマハ販売店へご相談ください。

■ バッテリーの電圧が低下している

- バッテリーの電圧が低下するとアイドリングストップ・システムが作動しないことがあります。しばらく走行して、一度エンジンを停止し、スタータースイッチでエンジンを再始動してください。頻繁に発生する場合は、ヤマハ販売店へご相談ください。

アイドリングストップ表示灯が点灯しているがアイドリングストップしない

■ 停車していない

- 車速が0 km/hにならないとアイドリングストップ・システムは作動しません。完全に停車してください。

■ スロットルグリップを回している

- スロットルグリップを回しているとアイドリングストップ・システムは作動しません。スロットルグリップを全部戻してください。

こんなときは

スロットルグリップを回してもエンジンが始動しない

■ アイドリングストップモード切り換えスイッチがIDLINGになっている

- アイドリングストップ中に、アイドリングストップモード切り換えスイッチを IDLING にする操作を行うと、アイドリングストップ・システムは解除されます。スタータースイッチでエンジンを再始動してください。
⇒ P. 32

こんなときは

アイドリングストップ表示灯は点滅しているがスロットルグリップを回してもエンジンが始動しない

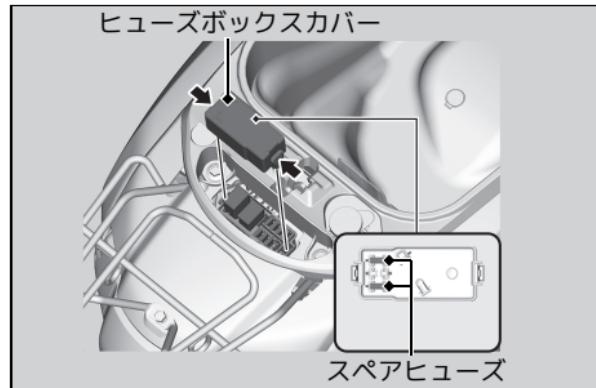
- スロットルグリップを回してもエンジンが始動しない場合はバッテリーコード端子の緩み、バッテリーあがりが考えられます。このようなときは、バッテリーコード端子に緩みがないか点検してください。⇒ P. 58
バッテリーがあがっている場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

ヒューズの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。☞ P. 50

ヒューズ切れ

■ ヒューズボックス内のヒューズ

1. シートを開ける。☞ P. 41
2. ヒューズボックスカバーを取り外す。
3. メインヒューズ、他のヒューズが切れている場合は、同じ容量のスペアヒューズと交換する。
► スペアヒューズはヒューズボックスカバーの裏側にあります。
4. ヒューズボックスカバーを取り付ける。
5. シートを閉じる。



アドバイス

ヒューズが切れた際は、早めにヤマハ販売店で点検し、スペアのヒューズを補充してください。

こんなときは

エンジンが一時的に不調になる

燃料ポンプのフィルターがつまると、走行中スロットルグリップを戻したような減速が散発的に発生します。

この症状が発生しても再走行は可能です。

ガソリンがあるにもかかわらず、走行中一時的なエンジン不調が発生した場合は、直ちにヤマハ販売店にご相談ください。

こんなときは

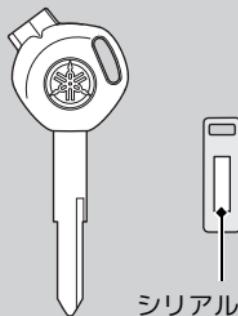
インフォメーション

キーの取り扱い.....	P.82
装備に関する補足情報	P.82
車のお手入れ	P.83
保管のしかた	P.86
廃棄するとき	P.86
フレームおよびエンジンナンバー	P.88
触媒装置について	P.89

キーの取り扱い

メインスイッチのキー

メインスイッチのキーについているキーナンバープレートには、シリアルナンバーがあります。このシリアルナンバーは、メインスイッチのキーを注文するときに必要になります。メインスイッチのキーを注文する際は、ヤマハ販売店にご相談ください。盗難防止のため、シリアルナンバーは他人に知られないように保管してください。



キーに金属製のキーホルダーを使用するとメインスイッチ周辺に傷がつくおそれがあります。

装備に関する補足情報

■ メインスイッチ

エンジンをかけずにメインスイッチをONの状態にしておくとバッテリーあがりの原因となります。

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

■ オドメーター

オドメーターは、999,999 kmを超えると 999,999 kmでロックします。

■ トリップメーター

トリップメーターは、999.9 kmを超えると 0.0 kmに戻ります。

■ 書類入れ

取扱説明書、登録書類、保険証、メンテナンスノートなどは書類入れに入れ、トランクに収納してください。

車のお手入れ

お車を長持ちさせるため、清掃などのお手入れは大切です。普段見逃しがちな異状の発見にもつながります。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行したあとは、必ず洗車してください。

洗車

エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで洗車しないでください。

1. 全体を水洗いして、汚れを取り除く。
2. 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジか柔らかいタオルを使って洗う。
 - ▶ 傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落してください。
3. 十分な水で洗剤を洗い流しやわらかい布で拭きあげる。
4. 車体を乾燥させた後、可動部分に注油する。
5. 車体の腐食を防ぐためワックス掛けを行う。

洗車にあたっての注意

洗車するときは、次のことをお守りください。

- 高圧洗車機の使用はさける
 - ▶ 車体に高い水圧がかかる洗車を行うと、可動部や電装部品などの作動不良や故障の原因となることがあります。
 - ▶ ヘッドライトレンズやフェアリング、その他のプラスチック部品を洗うときは、傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落してください。
- マフラーに水を入れない
 - ▶ 始動不良やサビの発生などの原因になります。
- シートの下方から水を強くかけない
 - ▶ 内部に水が入り、書類などが濡れることがあります。
- エアクリーナー周辺に水を強くかけない
 - ▶ エアクリーナー内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。

- ブレーキを濡れたままにしない
 - ▶ 水によってブレーキの効き具合が悪くなることがあります。洗車後は十分に乾かし、慎重なブレーキ操作を心がけてください。
- ワックス、ケミカル類や油脂類を扱うとき
 - ▶ ブレーキやタイヤにオイル等の油脂類、ワックスやケミカル類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。
 - ▶ ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディーの目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。種類によっては塗膜が薄くなったり色むらが生じるものがあります。
 - ▶ つや消し塗装が使われている場合は、塗装面にワックスやケミカル類を使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。
- ヘッドライトがくもったとき
 - ▶ ヘッドライトは雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドライト内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは、雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ヘッドライトの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。
 - ▶ ヘッドライトを点灯すると、くもりは徐々に消えていきます。ヘッドライトの点灯は、エンジンをかけながら行ってください。
但し、ヘッドライト内に水がたまっている場合や大粒の水滴がついている場合はヤマハ販売店にご相談ください。

アルミ部品

アルミ部品は土や泥、あるいは塩分によって腐食します。傷をつけないよう、取り扱いについては次のことについて注意してください。

- 硬いブラシやスチールワールを使用しない

樹脂部品

傷やひび割れ等を防ぐため、取り扱いについては次のことについて注意してください。

- 清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落とす
- 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流す
- メーター、フェアリング、ヘッドライトレンズなどの樹脂部品にガソリン、クリーナーなどがかからないようにする

エキゾーストパイプ、マフラー

エキゾーストパイプ、マフラーが塗装されている場合は、ステンレス用台所洗剤や市販のコンパウンドを使用しないでください。塗装面の清掃には中性洗剤を使用してください。もし、塗装処理されているかわからない場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

保管のしかた

屋外に保管する場合はボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。

また、長期間ご使用にならない場合は、次のことをお守りください。

- サビを防ぐために、保管前にワックス掛けを行う（つや消し塗装面を除く）
- 雨上がりにはボディーカバーを外し、車体を乾燥させる
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため、車から取り外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存する
 - ▶ もしバッテリーを車に積んだままにする場合は、 \ominus 側ターミナルを外してください。

長期保管後にお車を乗る際は、保管期間を考慮した上で、各部の点検を実施してください。

廃棄するとき

地球環境を守るために、お車や交換した部品、なかでも使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイル、トランスマッションオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

また、将来お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で広域廃棄物処理指定店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。

店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。



二輪車リサイクルマーク、リサイクル料金

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただけません。

ただし、廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、シートを開けると確認できます。▶ P. 41

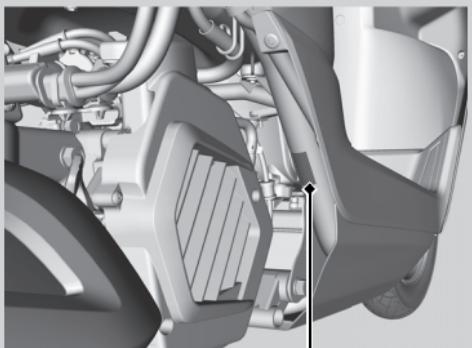


お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要です。マークは剥がさないでください。マークの再発行や販売の取り扱いはありません。廃棄二輪車に関するお問い合わせは、下記のホームページへお願いします。

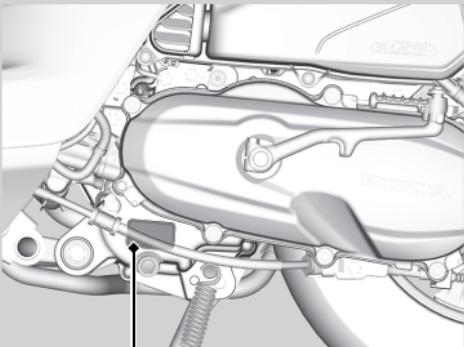
ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム
<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>
 公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ
<http://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

フレームおよびエンジンナンバー

フレームおよびエンジンナンバーは、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。また、フレームナンバーは、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手がかりにもなります。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車と別に保管することを推奨します。



フレームナンバー打刻位置



エンジンナンバー打刻位置

触媒装置について

この車は平成 28 年排出ガス規制適合車です。この車には触媒装置が搭載され、排出ガスに含まれる一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)、窒素酸化物(NOx)の 3 つの有害物質の排出量を低減します。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。触媒装置は高温になるので、枯れ草や紙など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

走行上の注意

次のような取り扱いはしないでください。触媒温度が異常に高くなり、損傷するおそれがあります。

- 走行中にメインスイッチを操作すること
- 空ぶかし直後にエンジンを止めること

触媒装置の損傷を防ぐために

触媒装置が損傷すると、排出ガス濃度を劣化させるだけではなく、車本来の性能を発揮できなくなります。損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- 燃料は、必ず無鉛ガソリンを使用する
- 定められた点検整備を実施する
- エンジン不調を感じたときは、直ちにヤマハ販売店で点検を受ける

スペック

■ 主要諸元

型式	2BH-AY01
全長	1,675 mm
全幅	670 mm
全高	1,040 mm
ホイールベース	1,180 mm
最低地上高	103 mm
キャスター角	26° 30'
トレール長	76 mm
車両重量	ジョグ 78 kg ジョグ DX 79 kg

乗車定員	1名
最小回転半径	1.8 m
排気量	49 cm ³
ボア×ストローク	39.5 x 40.2 mm
圧縮比	12.0:1
燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	4.5 ℥
バッテリー容量	ジョグ GTZ5S 12 V-3.5 Ah (10 HR) ジョグ DX GTZ6V 12 V-5 Ah (10 HR)
変速比	無段変速 2.850 ~ 0.860 機関から変速機 1.000
減速比	第一 3.214 第二 3.833

■ サービスデータ

ブレーキ レバーの遊び	10 - 20 mm
タイヤサイズ	前輪 80/100-10 46J 後輪 80/100-10 46J
タイヤタイプ	バイアス、チューブレス
指定タイヤ	前輪 CHENG SHIN C6161 後輪 CHENG SHIN C6161
タイヤ空気圧	前輪 125 kPa (1.25 kgf/cm ²) 後輪 200 kPa (2.00 kgf/cm ²)
点火プラグ	標準 CPR8EA-9 (NGK)
プラグギャップ	0.8 - 0.9 mm
アイドル回転数	2,000 ± 100 rpm
推奨 エンジンオイル	ヤマルーブレッドバージョンフォースクーター JASO T 903 規格 : MB
	SAE 規格 : 10W-30
	API 分類 : SL 級
エンジンオイル 容量	オイル 0.65 l 交換時
	全容量 0.7 l
エンジンオイル 交換時期	初回 : 1,000 km または 1ヶ月 以後 : 6,000 km または 1年ごと
推奨トランス ミッションオイル	ヤマルーブレッドバージョンフォースクーター JASO T 903 規格 : MB
	SAE 規格 : 10W-30
	API 分類 : SL 級
トランス ミッション オイル容量	オイル 0.10 l 交換時
	全容量 0.10 l

冷却水容量	全容量 0.31 l
指定 ラジエーター液	ヤマルーブロングライフクーラント
エアクリーナー	交換 : 10,000 km ごと
交換時期	

スペック

■ バルブ（電球）

ヘッドライト	12 V-40/40 W
ストップ / テールランプ	12 V-21/5 W
ウインカー	12 V-10 W × 4

■ ヒューズ

メインヒューズ	25 A
その他のヒューズ	10 A

スペック

索引

F	
FI 警告灯	23, 74
O	
OIL CHANGE	17
ア	
アイドリングストップ・システム	29
アイドリングストップ表示灯	23
アイドリングストップモード切り換え スイッチ	24
アクセサリー	9
安全運転のために	4
安全上守っていただきたいこと	3
安全なライディング	2
イ	
インナーボックス	11, 44
インフォメーション	81
ウ	
運転するときの注意	5
エ	
エアクリーナー	53
エンジン	
エンジンオイル	51, 60
エンジン始動	32
エンジンナンバー	88
エンジンオイル交換時期表示	17
エンジンが一時的に不調になる	80
エンジンがかからないとき	34, 72
オ	
オーバーヒート	73
お手入れ	83
オドメーター	18, 82
力	
改造	9
各部の名称	14
ガソリン	8, 39
カラーラベル	48

キ
基本操作の流れ 12

ク
クリップ 57

ケ
警告灯
FI 警告灯 23, 74
速度警告灯 23, 74

コ
交換部品 48
後輪ブレーキロック 28
こんなときは 71
コンビブレーキ 5

シ
シート
シート 41
シートオープナースイッチ 41

触媒装置 89
書類入れ 43, 82

ス
スイッチ
アイドリングストップモード切り換え
スイッチ 24
ウインカー（方向指示器）スイッチ 24
シートオープナースイッチ 41
スタータースイッチ 24
ヘッドライト（前照灯）上下切り換え
スイッチ 24
ホーンスイッチ 24
メインスイッチ 25, 82
スタートの手順 36
スピードメーター（速度計） 16
スペック 90
スロットル 70

セ
積載について 10
洗車 83

ソ	
速度警告灯	23, 74
その他装備	41
タ	
タイヤ	54, 91
正しい運転の操作	36
チ	
駐車	6
テ	
点検	
定期点検	47
日常点検	46
電装部品のトラブル	79
ト	
時計	
時計	18
時計の合わせかた	20
トランク	11, 42

トランスミッションオイル	52, 62
トリップメーター	18, 82
ナ	
慣らし運転	5
ネ	
燃料	
使用燃料	39
燃料残量	17
燃料タンク容量	39, 90
燃料補給	39
燃料計	
燃料計	17
燃料計の故障表示	75
ハ	
廃棄	86
バッテリー	49, 58
バッテリーメンテナンスリッド	59
ハンドルロック	26

ヒ	
ヒューズ	50, 79
表示灯	
アイドリングストップ表示灯	23
方向指示器表示灯	23
フ	
服装	4
フック	11, 44
ブリーザードレーン	53, 69
ブレーキ	
使いかた	5, 38
ブレーキシステム	5
ブレーキシュー	68
フレームナンバー	88
ヘ	
ヘッドライト（前照灯）上下切り換え	
スイッチ	24
ヘルメット	
ヘルメット	4
ヘルメットホルダー	42

ホ	
方向指示器表示灯	23
ホーンスイッチ	24
保管	86
メ	
メインスイッチ	25, 82
メインスイッチのキー	82
メーター	16
メンテナンス	45
モ	
モードボタン	16
リ	
リアキャリア	11
リサイクルマーク	87
レ	
冷却水	53, 64

お問い合わせ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず
ヤマハ販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、
登録年月日
- ②車種名、タイプ名、走行距離
- ③ご購入年月日



QQS-CLT-100-B3K

30GX0600

00X30-GX0-6000

④ 15000.2018.03.J